

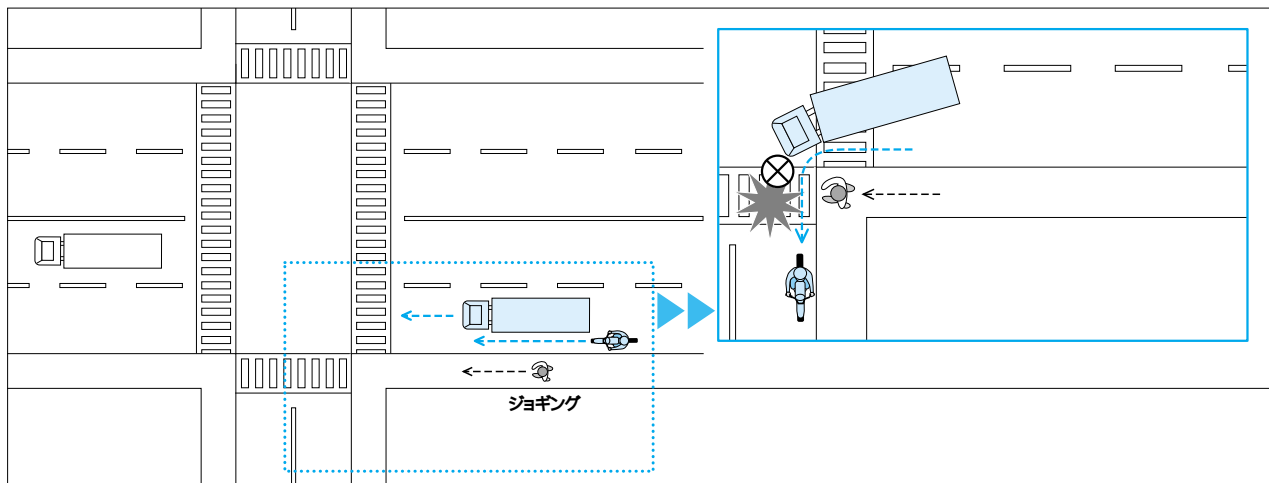
職場における 交通安全指導

Part 63

事故事例に学ぶ

30

交差点を左折する際、横断中の歩行者に衝突



事故の概要

発生状況

日時：平成17年11月某日 午前5時頃
天候：曇り

道路状況

片側2車線の県道と片側1車線の市道が交わる信号機のある交差点

事故の当事者

運転者A（普通トラック）：48才、男性
被害者B（ジョギング中の歩行者）：42才、男性

被害状況

A：前部バンパー左側微損
B：右足骨折、右半身打撲（全治3か月）

事故状況

トラック運転歴が22年になるAは、入社後間もない頃に軽微な物損事故を1件起こしていたが、その後無事故を続け、社内でも信頼の厚い模範運転者であった。

事故となった当日は、午前4時50分頃に空荷の4t車で会社を出発し、近くの食料品倉庫から荷物を積み込み、県内数箇所のスーパーに搬送する予定だった。

会社を出発したAは、いつもの通り慣れた片側2車線道路の左側車線を、前照灯を点けて走行した。まだ早朝の時間帯であり、道路は比較的閑散としていた。

事故地点となった交差点を左折する予定で走行中、交差点からかなり手前の左側歩道上を、A車と同方向に向かってジョギングしている黒いスポーツウェアのBを認めた。

Aは、交差点の信号が「青」であったことから早めにウインカーを出し、徐行をしながらミラーで左後方を確認したところ、A車の後方から、同じく前照灯点灯の自動二輪車が歩道側を走行してくるのを認めた。

二輪車は高速度で接近してきたためAは、二輪車は交差点を直進するものと予想し、巻き込みの危険を避けるため、先に通してから左折をしようと考えた。

ところが、二輪車は交差点に近付くにつれて徐々にスピードを落とし、左のウインカーを出して、A車とほぼ並進しながら走行した。

Aは並進中の二輪車が気になり、その動向に傾注しながら交差点直近に至り、停止状態で二輪車を先行左折させた。そして、二輪車が左折を終えてから多少間をおいて自車の左折を開始した。

その時Aには、ジョギング中のBの存在が一瞬頭をよぎったが、まだ近付いていないと判断し、搬送先の経路等を考えながら、左右に一瞬眼を転じただけで、二輪車につられるように横断歩道を横切ろうとした。

ところがBは、信号が「青」のうちに交差点を渡り終えようと、足を速め、一気に横断歩道に進入、発見したAは慌ててブレーキを掛けたが間に

合わず、前部バンパー左側で跳ね飛ばし、転倒させて重傷を負わせた。

会社を出発してからわずか10分後のことであった。

事故の原因

事故の発生時間帯は早朝で、しかもどんよりとした曇り空で周囲は暗く、人や物のコントラストも鮮明ではなく、また、Aは目覚めてさほど時間が経っていなかった。

このような状況下では、認知、判断、操作という一連の運転行動が、機敏に、また的確にとれず、見落としや操作ミス等が原因の事故が多く、交差点を左折する際には、特に重大事故となる危険性が高いので、周囲に最大限の注意を払い、十分警戒して走行すべきであった。

Aは、早朝で閑散とした道路状況に気の緩みもあったと思えるが、自動二輪車が急接近してきたことに注意が集中し、周囲に気配りができない状態になってしまった。

特にジョギング中のBについては、事前に確認しており、注意深くその動向を注視すべきであったのに、二輪車につられて走行し、搬送先の運行経路のこと等を考え、周囲の安全確認を怠ったことが、事故の原因といえる。

一方Bも、信号が「青」であったのを幸いに、A車が停止状態であるのを見て、「自分が横断するのを待っている」と思い込み、二輪車の通過後、前方だけに視線を向け横断歩道を駆け抜けようとしたことは無謀な行動であったといえる。

安全指導

無事故歴の長い運転者は要注意

死亡事故を起こした人の約75パーセントは事故歴の無いドライバーが占めています。

無事故歴の長いドライバーは、一方で危険の前兆であると受け止めることが肝要です。

Aは、20年以上にわたる無事故歴を誇る優良なドライバーでした。しかし、Aが交差点を左折する際、Bが横断歩道を渡ろうとしたのを見落とし、背景には、長いトラック運転経験の中で、いつしか「自分は事故を起こさない」という自信、過信が芽生えていたのではないのでしょうか。

いくら優良なドライバーでも、事故に遭遇する危険が軽減されるものではありません。

Aのように長い無事故歴は、「危険の兆し」と心得て、事故に結びつく“油断”を戒めましょう。

交通弱者の保護

市街地におけるトラック事故の約70パーセントは、信号機のある交差点で発生しています。

しかも、このような交差点では歩行者、自転車および二輪車等のいわゆる「交通弱者」が犠牲になる事故が多発しています。

トラックの場合は、眼やミラーで捉えられない「死角」部分が多いことから、特に交差点における右左折の際に、横断中の歩行者、自転車が被害にあう重大事故が多いので十分な注意が必要です。交差点通行時には、交通弱者の通行を優先し、保護する防衛運転を心掛けましょう。

早朝運転に注意

早朝は、比較的道路が閑散としていることから、運転が単調になり油断しがちです。また、「暗」から「明」に移行する境となる早朝時間帯は、眼に映る映像が鮮明でなく、しかも人間の運動機能、判断能力ともに減退している時間帯といわれています。

そのような状況が、黒いスポーツウェアに身を包んだBを見落とす原因となったと推測されます。早朝であっても、市街地ではジョギング、散歩等で横断歩道を行き交う人は少なくありません。

早朝はスピードを出している車が多く、ひとたび事故が発生すると重大事故となる可能性が高いので、油断は禁物です。

気の緩みに注意

事故の大半は、運転を開始してから30分以内に発生しています。Aの場合は、会社出発後わずか10分で事故を起こしています。

長時間運転の疲労による注意力の低下にも十分な警戒が必要ですが、実際には運転開始後間もない時間に事故が多発していることを十分認識し、出発直後から警戒心を怠らない運転を心掛けることが必要です。

また、事例の道路は通り慣れた身近な道路であったことから、“慣れ”から警戒心が希薄になり、事故に影響を及ぼしたとも考えられます。

通り慣れた道路で、交通状況に熟知しているつもりでも、交通状況は常に変化しています。

“慣れ”からくる気の緩みが事故の要因となる場合が多いので、十分気を付けましょう。

事故防止重点項目の徹底

「交差点における右左折事故の防止」

特に横断中の歩行者、自転車および並進・対向直進の二輪車に注意しましょう。